

## **本会記事**

### ■第35回プラズマ・核融合学会年会報告

第35回年会在2018年12月3日～6日の日程で、大阪大学吹田キャンパス、コンベンションセンターで開催されました。大阪での年会の開催は、1997年以来で21年ぶりです。今年は、プラズマ・核融合学会設立35周年であり、この記念すべき年会在大阪大学で開催できたことは大変に喜ばしいことと思っています。コンベンションセンターは、大ホールと会議室4室（100人規模）、およびオープンスペースがあり、これらをフルに活用しました。コンベンションセンターという一つの建物の中で、すべての講演と企業展示を行ったことで、会場間の移動がしやすいという利点がありました。一方で、今回の年会ではプログラムを充実させるため、パラレルセッションの数をこれまでの3から4に増やしたため、ポスター会場や展示会のスペースが十分にとれず、やや手狭だったかと思います。

今回の年会では、日本物理学会（領域2）や応用物理学会（プラズマエレクトロニクス分科会）との合同会合（Plasma Conference）が今後見直されることを受け、プラズマ・核融合学会年会の活性化を図るために新たなプログラム策定方針が理事会で決定され、それに沿って進めることになりました。新たな方針では、プログラム委員会がプログラムの策定に積極的に関与して、シンポジウムやセッションを企画することになりました。これまでは、特別講演を除き、プログラム委員会がシンポジウムや一般セッションの企画を提案することはありませんでしたが、そのためタイムリーな企画を実施できないことや、他学会で活動されている方に興味を持っていた

けるセッションを構成することができない、等の問題が指摘されていました。

そこで今回の学会では、新たに導入された4領域（基礎、応用、核融合プラズマ、核融合炉工学）が、それぞれシンポジウム、招待講演、およびオーガナイズドセッションを企画しました。特に、オーガナイズドセッションは、これまでの年会になかった新たな試みで、領域が指定したテーマのもとで一般講演で構成されるセッションです。今回の年会では、「プラズマプロセスの高精度制御（応用）」、「高専における放電プラズマ教育研究の拡がり」と展望（応用、核融合プラズマ）」、「実験室プラズマ・天文プラズマ連携セッションー加熱・輸送・乱流現象を中心に（基礎）」、「プラズマと生体の相互作用（応用）」の4件のオーガナイズドセッションが行われました。これらのオーガナイズドセッションでは、他学会の方が参加しやすいように、当学会会員でなくとも、当学会員と同じ資格で発表できるというルールを設けました。その結果、多くの他学会の方に参加していただき、活発な議論が行われました。

期間中の参加者は、739名（正会員320名、学生会員283名、シニア会員19名、会員外110名（非会員の発表者はオーガナイズドセッション43名、特別講演1名、招待講演5名、シンポジウム26名）、その他7名）であり、最も参加者数の多い年会となりました（Plasma Conferenceは除く）。講演件数は全体で、特別講演1件、シンポジウム10件、招待講演21件、一般講演572件（口頭発表128件、ポスター444件（ポストデッドライン5件を含む））で、さらにインフォーマルミーティング4件が行われました。このうちオーガナイズドセッション分は、招待講演4件、一般講演64件（うちポスター発表46件）でした。また、若手学会賞には、230件（口頭発表41件、ポスター発表189件）がエントリーし、168名の審査委員による厳正な審査により、8名の受賞者が選出されました。

現地実行委員会の企画による特別講演として、農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）理事長（前 総合科学・技術イノベーション会議 常勤議員）久間和生氏による「科学技術イノベーションの創出に向けて」と題した講演を行いました。この講演では、久間氏が貢献された、新たな国家プロジェクトSIP, ImPACTの創設と推





進, Society 5.0 のコンセプト構築等の内容, および最近の農研機構の活動を自動運転トラクターの動画などを含めて紹介されました. これからの科学技術の進むべき方向について多くのメッセージが含まれた内容でした.

企業展示には, 28 社からご参加いただきました (1 社は会場スポンサーとして). 展示ブースをポスター会場の中に設置したことで, 特にポスター発表への参加者に多く訪れていただき, こちらも盛況でした. さらにランチオンセミナーも 1 件行われ, また 35 周年を記念したサッカー大会も 1 社にサポートしていただき, オリジナルのユニフォームを制作しました.

懇親会は, 大阪らしい場所ということで, 難波の宴会天国 MISONO (味園) の大座敷で行われました. 年会会場の大阪大学から少し離れていましたが, 200 人あまりの方にご参加いただきました. 特に大阪らしいイベントをしようということで, 吉本から「からし蓮根」のお二人に漫才を披露していただきました. 参加者の皆様には, 昼の宴会場に座ってくつろぎながら楽しい時間を過ごしていただいたのではないかと思います.

本年会の開催に当たっては, 多くの皆様からのご支援とご協力を頂きました. 吉田善章会長を始め, 領域長を含むプログラム委員会の方々, 現地実行委員会の方々, および学会理事や事務局の皆様には大変ご尽力いただきましたこと, 心より御礼申し上げます.

最後に現地実行委員会の皆様の名前を記し, その献身的な活動に心よりお礼申し上げます. 兒玉了祐, 重森啓介, 佐野孝好, 千徳靖彦, 有川安信, 村上匡且, 長友英夫, 坂和洋一, 余語覚文 (以上, レーザー科学研究所), 浜口智志, 上田良夫, 伊庭野健造, リハンテ (以上, 工学研究科)

(第 35 回年会 組織委員長 上田良夫)